岸t 辺~ に の に憩ふ水鳥の 縁なり の一流 0 É

ああ石狩の天空晴れ孤影ぞしばし春の水はない。 け謳ふ恵迪の れ 水み Ċ 面ぉ

児等が生命や聖からん

歓喜憂苦を共にせむ

人生意気に感じてかいないがある月影や松の枝漏るる月影や 結ぶ契のな 芸の峯巍峨の峯の 紫海 ぎが 紫海 ぎが でない でいる でいる でいる でいる の盃に

> 燦゚ 南なみ 声を限りの感激かな の海の有明に 깯

染め映えにした。 の ぼの と

散りぬる若桜もあるぞかし いかで我等の蹶起ざらん < 星辰の消え果てて か 朝 日 影

いざや伝 の絢夢偲びつつ 心の聖火を翳り

春風頬涙を乾すなれ 散りゆく夜迷雲のかげ消えて の庭に四十回の ば

寮ったり

舘ゕ 噫ぁ 世は変遷り人変り Ŧi.

熱血燃ゆる益良夫がないけつもゆる ますらいお 剛毅の大旆仰ぎてしごうきたいはいあお 皇国の道に挺身まんと
ダペ タダ ダダ の原始林は愁へども し眸に光輝あれ

竹山賢治 莙 作 Ж 鈴木

信夫

君

作

詇